

審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 平成26年度関西学生バスケットボールリーグ	期間 26年 9月13日(土)～ 9月14日(日)
開催地 大阪府・滋賀県	会場 大阪教育大学・滋賀県立体育館
参加者 岩崎 晋也	所属地区名 札幌地区
実践実技1	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
26年 9月13日 (土)	対戦カード 男子2部 大阪体育大学 vs 龍谷大学
主審 ・ <u>副審</u>	相手審判 小野氏(愛知県)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・手の使い方を正しくさせたいという意識を持つこと。 ・エリアやラインの分担、エリア3のサイドラインやエリア6のエンドラインについては反対のレフェリーが判定した方がよい場合もあること。 ・1つのプレーで面が変わる場合の引継ぎについて確認した。 ・オールコートのディフェンスやゾーンディフェンスに変わった時の対応の仕方を確認した。 	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス	
※クルーでミーティング <ul style="list-style-type: none"> ・ペイントエリア内でのダブルホイッスルが少なく、基準の刷り合わせが必要だった。リバウンドに対する判定では吹いた方がよかったケースもあった。 ・特別な時間帯には特別な動きをして、判定しに行かなければならなかった。 	
ゲーム感想	
この日の試合会場では、再延長の試合をはじめ、僅差となる好ゲームが続き、私のゲームも1点差というゲームだった。緊張感が高まる中でのレフェリーを務めることができ、よい経験になった。しかし、重要な時間帯でのポジショニングに甘さがあったため、これからさらなる研鑽を積んでいきたい。	
実践実技2	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
26年 9月14日 (土)	対戦カード 男子1部 大阪産業大学 vs 大阪学院大学
主審 ・ <u>副審</u>	相手審判 大野氏(奈良県)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<ul style="list-style-type: none"> ・上背のある大阪学院大学に対して、そうではない大阪産業大学がどのような守備をしてくるかに着目すること。 ・大阪産業大学は交代を繰り返して、オールコートでの守備を敷いてくるのでその対応をすること。 ・第1ピリオドで、アウトオブバウンズ・トラヴェリングなどのヴァイオリションを落とさず、当たり前なことを当たり前前にさせていきたい。 ・役割分担・協力をしっかりしていくこと。 	

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス

※クルーでミーティング

- ・大阪産業が1対1を仕掛けてくる際、ヘルプに来る大阪学院のブロックで、手は大丈夫でも、体の寄せ方はどうであったか。視野に全体像を入れておけるよう努力するべきである。
- ・プレスディフェンスに対しては左斜め後方から追従するだけでなく、真横や反対側に回り込んで判定しなければ見えない手の出し方や、フラッシュに対するディフェンスがある。

ゲーム感想

点差の開いたゲームであったが、最後まで集中して円滑な運営ができたと振り返っている。スピードがある中での間合いの近い1対1や、高さのあるリバウンドの攻防は見応えがあった。そのため、トレイルではよりよいスペースを素早く追いかけること、リードでは下がったり、広がったりすることが普段よりさらに必要であることを感じた。

まとめ

初めての関西学生リーグへの稼働で、大きなトラブルもなく2試合を担当できたことは自信につながりました。西日本各地からいろんなレフェリーの方が稼働されており、参考にしたい動きや判定が数多くありました。レフェリー活動に対する考えや取り組み方についても交流ができ、これからのレフェリー活動への意欲もさらに高まりました。自分がやってきたこと、言われてきたことが間違いではないと確信に変わった2日間でした。

このような機会を与えてくださった、北海道バスケットボール協会ならびに札幌地区の皆様には感謝いたします。ありがとうございました。